

# みんなが認め合い力を合わせて、 みんなが幸せなまちをつくる

## 多摩区ソーシャルデザインセンター



昨年3月のプレオープンから1年を迎えた多摩区ソーシャルデザインセンター（多摩SDC／多摩区総合庁舎1階）。昨夏には一般社団法人として再スタートし、活動の幅を広げてきた。代表の岡本幹彦さん（59）と副代表の辻野勝行さん（77）、学生スタッフの田村彩乃さん（20・東京家政大学2年）の3人に、1年間の振り返りや今の思い、これからについて話を聞いた。（企画制作／タウンニュース社）

### SDC開設から1年 いまを語る

— 今年14日に活動報告会を開催し、同日「グランドオープン」を発表しましたね。今の思いは？

**岡本** 「SDCって何？」と言われていた1年前に比べ、報告会では活動を知ってもらえている実感があって、メンバーにとっても一つの成果でした。皆の一生懸命な活動でこの日になど到着することができました。

**辻野** 上手くいっていることの一つは、区役所1階の事務所。地の利を得て、通りすがりに立ち寄ってくれる人も多いです。もう一つは、学生から70代まで、多世代のメンバーが集まっていること。これがうまく機能していると思います。

**田村** 学生の中では「とにかくやってみる」という気持ちが大変大きい1年でした。例えば、昨年11月の登戸まちなか遊縁地。7月ごろにお話をいただいたり、何とか形にしようとする学生を巻き込むイベントを企画しました。報告会の運営も学生が携わり、活動がだんだん広がっていると感じています。

### ウィズコロナの時代に

— コロナ禍の1年でもありました。それぞれ苦労した部分は？

**辻野** 地域活動の相談窓口となる事務所は、昨年の緊急事態宣言で休止。夏には1人体制で受け付け、十分に対応できる不安なときもありました。ですが1年間で受けた相談は110件。新たな活動につながった事例もありました。SDCの助成金を活用した「TAMA VOICES」もその一つです。

**田村** 通常時は人を集めることが大変だと思いましたが、逆にコロナ下では地域に多くの学生がいて苦労しませんでした。多摩区にいつもいる学生、住んでいる学生が集まって、学校の後輩や同級生、友達の友達と、根を張るよう広がっていった感覚です。

**岡本** 学生は破壊力満点。こういう取り組みをやっている自治体は、そうないんですよ。それを地域の若い人、ある意味「活動家」にやってもらえて

代表  
岡本幹彦さん



副代表  
辻野勝行さん



いるのはすごくよかったと思います。

— 「オンライン」も活用されていますが、手応えは？

**岡本** オンラインはインフォメーションは伝わるけれど、知恵だったり、日本人特有の「行間」だったり、は伝わりにくい。限界があると感じています。

**辻野** 現場で顔を見て話すことも通じて、温かさの中で物事が進んでいきませんが、インターネットでは言葉だけが走ってしまっているケースも。直接の対話とオンライン、両方を使いこなしながら相互補完する必要があります。

**田村** 学生も顔を合わせるというのはすごく大事にしています。昨年6月から「学生カフェ」を週に1回開催して、就活の話をしたり、イベントの準備をしたり。それがあつたからこそ、緊急事態宣言などで会えないときも、オンラインを上手く使って意思疎通ができるようになっていきました。

### 「多世代」で未来見据え

— これから先、取り組みたいこと、取り組むべきことは？

**辻野** 組織としての体制づくりです。透明性と健全性を担保していく必要がある。10年後を見据えた組織づくりが喫緊の課題。そのために人材を掘り起こして、さらに支援できる体制を整えていくことが大事です。

**岡本** 若い人たちがもてますが、60歳、65歳以上の人たちが自助活動をしていけたらいいと思っています。シニアの活動が見える地域はやっぱりいい。もちろん何でも無償ではなくて、交通費や弁当代を提供できるような仕組みをつくってほしいですね。

**田村** 30代、40代が少ないという声もありました。今の学生がずっとここにいてほしいですね。

### 地域コミュニティ活動支援事業 （まちなかのひろば 活動支援資金）

地域の新たなコミュニティづくりにつながる事業を行う多摩区の団体・法人に対し、事業資金の一部を支援するもの。今年度は6団体が参加しました。

#### 2020年度の参加事業・団体

- 「私たちがやる」部門
- 子ども食堂を広げたい (株)JASFELL
  - 地域活性化とコミュニティの再構築のぼりとゆうえん隊
  - タウン情報を発信する Web マガジン ZipCooDE
  - 本の好きな子を育てよう ちゅうりん庵
- 「これを広げたい」部門
- 区民参加型アートプロジェクト TAMA VOICES
  - 子どもたち向けの英語教室 Englishmen

★2021年度の募集についてはお気軽にお問い合わせください



学生スタッフ  
田村彩乃さん

小学校や幼稚園・保育園から多摩区に住んでいる意識をもってもらえたら、その子たちが親になっても続いていくと思います。楽しみながら、面白さを感じながら続いていってほしいです。

— 区民の皆さんにメッセージを。

**辻野** 相談を受けていると、一つの悩みの裏にいくつも不安を抱えていることが多いです。寄り添って話を聞くことで解決の糸口が見つかり、団体同士をつなぎ、好循環が生まれます。小さなことでも気軽に相談してください。

**田村** 地域活動という堅苦しく入りにくいと思う方もいるかもしれませんが、自分のためになる一方で、気づいたら地域のためにもなっているという目標があると、もっと入りやすくなるのかなと思っています。

**岡本** 多摩SDCはまだ「1歳」で、人間でいえば立ち上がるころ。もう少し長い目線で、見守るのではなく、一緒に参加してほしいです。僕らのスローガンは「みんなが認め合い力を合わせて、みんなが幸せなまちをつくる」。幸せなまちは誰かにつくってもらうものではないと思うんです。いつでもお待ちしております。

若い世代 × まちづくり

## SDCを支える 学生のチカラ

多摩SDCには、企画立案や運営を担う学生スタッフ（正会員）が約20人所属。さらに、ボランティアとして多くの学生が事業に参加しています。たとえば…

**子ども食堂**  
2020/7～

月1回の「子ども食堂」  
働く親とそのお子さんを対象に月1回開催。コロナの影響で休止した期間は、テイクアウトできるようにおにぎりプロジェクトを立ち上げたり、JAから寄付していただいた餅米でお餅を配ったりと工夫してきました。  
間瀬葉月さん

**登戸まちなか遊縁地に参加**  
学生総勢60人がスタッフとして参加し、ステージ出演者の紹介やスタンプラリーなど運営をお手伝い。実行委員会の会議にも参加し、学生同士で打ち合わせを重ねて、当日は各自の役割を果たすことができました。  
田村彩乃さん

**SNSを活用した広報**  
フェイスブック等で活動の情報を発信しています。特にインスタグラムでは、学生スタッフが地域活動専用の個人アカウントを持っています。独自の視点で情報を伝えることで、新たな学生の参加につながっています。  
伊藤直人さん

**NEXT >>> 登戸・たまがわマルシェ 5月1日(土) 10:00～16:00 (荒天翌日順延)**  
多摩川河川敷 小田急線高架下付近

飲食物販・フリーマーケット・ステージ他 たくさんの楽しみを用意しております！

多摩区のみなをつなぐ！

## 多摩SDCにご相談を。

区役所1階に事務所があります◎

### 多摩区ソーシャルデザインセンターはこんな取り組みをしています

- 市民活動の相談窓口・活動支援**  
地域課題の解決に取り組む団体や法人、企業などをつなぐ支援をしています。平日は事務所スタッフが随時相談を受け付けています。
- まちなかのひろば創出・交流促進**  
だれもが気軽集える地域の居場所づくりとして、さまざまなイベントを企画しています。
- 子ども食堂
- たまミュージックビレッジ
- セキさんのアロマ
- 若年性認知症カフェ
- 学生カフェ（フライデーナイト）ほか

多摩SDCの支援区内に5カ所開設！

皆さんの声を  
お寄せください！

「地域の団体や企業とつながりたい」  
「一から新しい活動を立ち上げたい」  
「地域で相談できる居場所がほしい」  
「生活を豊かにする教養を学びたい」

**現代版リベラル・アーツ（教養講座）**  
明日を楽しく生きるための教養講座。SDC事務所を中心に、区内で出張講座も開催しています。  
【これまでに開催したテーマ】  
・子ども想いの靴選び  
・これからババになる人へ  
・SDGs 食品ロス対策 ほか

子育てや独立起業などをテーマにしました！

**課題解決を目指した社会実験**  
調査・研究・実験・課題解決の実践を大学や専門家と連携しながら取り組みます。  
⇒マイボトル推進を図るウォーターサーバー導入（調整中）、地域防災力向上のための調査（準備中）

**多摩SDC information**

◆多摩区登戸 1775-1 多摩区総合庁舎1階  
（開所時間 平日 10:00～16:00）

☎080-6573-0043  
🌐https://tama-sdc.com  
✉toiawase@tama-sdc.com